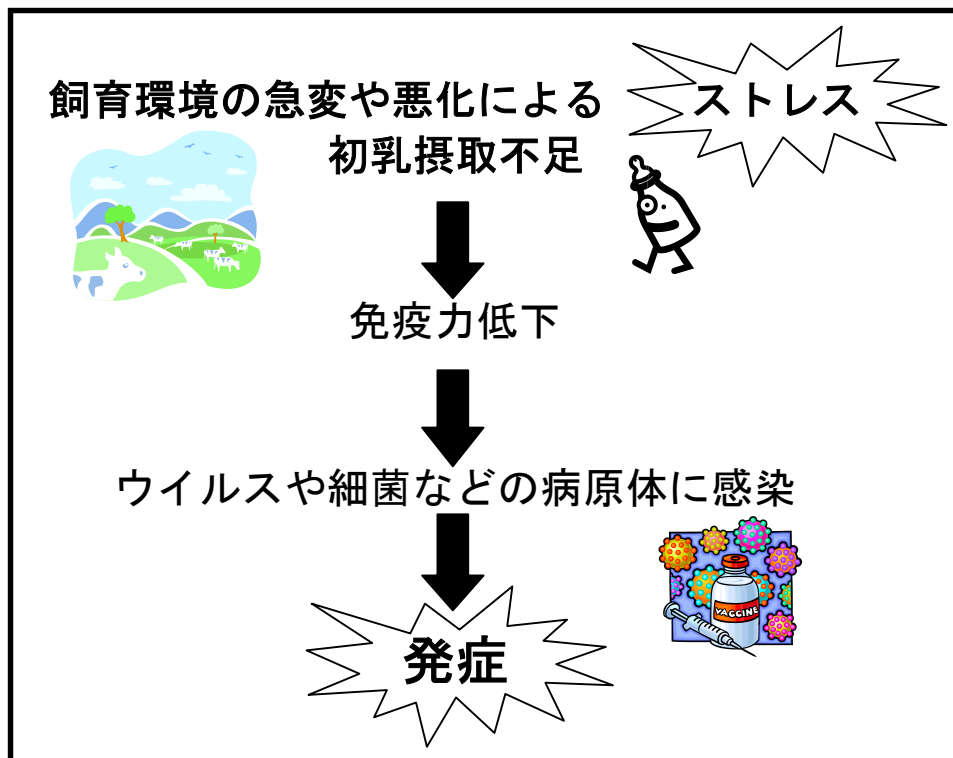


子牛の病気にご注意下さい！！

冬や季節の変わり目は、子牛の呼吸器病（肺炎など）や消化器病（下痢など）が起こりやすい時期です。子牛の状態はいかがですか？

★原因

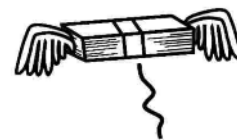


★子牛が病気になると・・・

治療費がかかる
増体が悪くなる



経済的損失！！



まずは、初乳を適切に給与し、衛生管理や防寒対策をしっかりと行い、病気の発生を減らすようにこころがけましょう。



裏にチェックシートがあります。
ぜひお試しください!!

★チェック項目

以下に病気を防ぐためのチェック項目を挙げてみました。できる所から少しずつ取り組み、子牛の病気の発生を減らしていきましょう!!

牛の免疫	ワクチン	<input type="checkbox"/> 分娩前の母牛と子牛にワクチンを接種 →母牛：下痢・呼吸器病、子牛：呼吸器病	
	初乳対策	<input type="checkbox"/> 初乳を適切な時期に適切な量給与 →初乳や水はお腹を壊さないよう、温めて与える	
		<input type="checkbox"/> 凍結初乳または粉末初乳を常備 →母牛の初乳が使えない場合に備えて	
環境	保温	<input type="checkbox"/> 保温ベストやネックウォーマーの使用 →子牛にとって 20±5℃が適温 →5℃以下で発育停滞	
		<input type="checkbox"/> 遠赤外線ヒーターやハロゲンランプを常備 →出生直後や下痢・風邪の子牛は体温低下が起きやすく保温が必要	
		<input type="checkbox"/> ハッチやシートを活用し、隙間風が直接当たらないようにする →風が当たると体感温度が低下（風速 1m/秒で 4℃減少）	
	衛生管理 (呼吸粘膜保護・ストレス防止)	<input type="checkbox"/> 床が乾燥し、敷料が十分入っている →床が湿っていると体温が奪われる →床替えを怠ると尿による刺激臭（アンモニア臭）の原因に	
		<input type="checkbox"/> ほこりが立ちにくい敷料を使用 →細かい素材の敷料が気管に吸い込まれると肺炎の原因に	
		<input type="checkbox"/> 十分な換気	
		<input type="checkbox"/> 牛舎内で鼻がツンとするような刺激臭（アンモニア臭）の発生防止 →アンモニアが呼吸器粘膜を傷つけ、病原菌に感染しやすくなる	
		<input type="checkbox"/> 適切な飼育密度 →過密飼育は牛にとってストレス →衛生管理も行き届かなくなる	
	1頭辺りの飼育面積の目安		
	乳牛	肉牛	
	単飼	2.4m ²	2.0m ²
	群飼	5.5m ²	5.4m ²
	<input type="checkbox"/> 定期的な消毒 →理想的には月1~2回、特に移動などで空になった時		

愛知県西部家畜保健衛生所

TEL(0569)72-0344 FAX (0569)72-2770

